HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	The Eternal Pursuit of Arbitrary God : Melville's Method of Provoking Immortality [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	鈴木, 一生
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第13837号
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/78692
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Issei_Suzuki_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：鈴木　一生

主査　教授　　竹内　康浩
審査委員　副査　教授　　瀬名波　栄潤
副査　教授　　野村　益寛

学位論文題名

The Eternal Pursuit of Arbitrary God: Melville's Method of Provoking Immortality

（終わりなき恣意的な神の追跡：メルヴィルによる永遠性の呼び起こし）

・当該研究領域における本論文の研究成果

アメリカ文学を代表する作家のひとりであるハーマン・メルヴィルの作品に、分身のテーマが頻繁に用いられていることや、彼の作品がカルヴィニズムの影響下にあったことは、これまでにも多くの研究者によって指摘されてきた。しかし、本論文は、神の意志か人間の自由意志のどちらを尊重して生きるべきかという、メルヴィル本人の宗教的葛藤が反映される場として、分身のテーマを理解しようと試みるものであり、その取り組みには一定の成果を認めることができる。特に、メルヴィルが神意と自由意志の一致を認めず、むしろ両者の不一致を創作の重要なインスピレーションとしていたことを、各作品の精読から具体的に明らかにする手際は、時に鮮やかであり、かつ着実であり、高い評価に値するものである。こうした議論を裏付ける過程で指摘される、ウィリアム・シェイクスピアの『ハムレット』がメルヴィルの『白鯨』に与えた影響も、従来はあまり注目されることのなかった観点であり、これからのメルヴィル研究に新たな視点をもたらすものと期待される。

なお、本論文は、国内の学術誌に掲載された 3 本の査読論文と、国内の学会での口頭発表１本の内容を含むものである。

・学位授与に関する委員会の所見

本論文は、これまで広く議論されていたメルヴィルの諸作品における宗教的なテーマについて、分身の主題に注目することで、神の計画対人間の自由意志という従来の議論の図式を一人物の中の分裂として読み替える新しい試みであり、その学問的成果は、研究成果において述べたように、一定の評価がなされるべきものである。その一方で、審査委員会は課題として残された問題点について執筆者へ指摘も行った。特に、メルヴィルがシェイクスピアから受けた影響を論じる第二章では、従来から『ハムレット』との関連でしばし

ば議論されるメルヴィルの代表作『ピエール』について、その議論の限界が指摘されることなく、『白鯨』のみについて論じていること、あるいは、短編「貧乏人のプディングと金持ちのパンくず」を論じる第三章では、議論が「貧乏人のプディング」の部分に偏っており、両者を共に論じることで可能になるはずの「対立」あるいは「分裂」という重要な要素が見落とされていることなどが指摘された。

しかしながら、審査委員会は、本論文の新規性と独自の議論を構築しようとする意欲と成果を、これらの問題点以上に評価することで一致を見た。口頭試問においても、これらの問題点を克服し、より高度な議論へと改善してゆくことが可能であることが確認できた。以上の審査状況に基づき、本審査委員会は全員一致で鈴木一生氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であると判断した。